

仙台市文化芸術推進基本計画
令和6(2024)年度 取組み実績
〔重点プロジェクト・横断施策〕

重点プロジェクト

①文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト

市民主体により築かれた本市の豊かな文化的環境を未来へとつなぐため、様々な文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげます。また、これからの本市の文化芸術環境を支える仕組みについて検討を進めます。

〔R6 取組み実績〕

取組み項目	地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成
目的	共生社会の実現に向けた取組み等、社会課題と向き合う公益性の高い文化芸術活動を多様な主体との協働により推進し、継続、発展に向けた担い手の育成につなげる。
事業内容	次の①②の取組みに対し助成を行うとともに、②の採択者に対し助言・相談・広報・事業評価等の側面支援(伴走支援)を併せて行う「文化芸術を地域に生かす創造支援事業」を実施する。 ①文化芸術の創造・発信事業 地域の文化芸術の活性化やまちの魅力向上に資する事業 ②文化芸術と社会の連携推進事業 他分野に関連する地域や社会の課題に向き合う先進的・独創的な文化芸術事業
決算額	26,372 千円
実績	【助成実績】 外部委員4名で構成する審査会を経て、以下のとおり助成を行った。 ・文化芸術の創造・発信事業 申請数 52 件、採択数 17 件 ・文化芸術と社会の連携推進事業 申請数 38 件、採択数 12 件(※1) ・情報保障・鑑賞サービス補助(※2) 7 件 ※1 うち、スタートアップ枠 5 件 ※2 「文化芸術の創造・発信事業」のうち、活用希望のあった採択事業へ補助 【伴走支援実績】 ○キックオフミーティングの開催(令和6年7月11日) 主に「文化芸術と社会の連携推進事業」の採択者を対象に、事業実施にあたっての相談窓口の紹介や採択者どうしの交流の場とすることを目的として実施した。

	○レビュー記事の執筆(通年) 「文化芸術と社会の連携推進事業」の採択者の活動に対し、県内外の専門家による視察・ヒアリング・意見交換等を行うとともに、採択者の活動のより効果的なPRを図るため、当該専門家へレビュー記事の執筆を依頼した。 ○活動報告会の開催(令和7年2月8日) 「文化芸術と社会の連携推進事業」の採択者を対象に、採択者の活動内容や事業の成果について広く発表するとともに、市内で活動する文化芸術の担い手の情報共有の場とするため、活動報告会を実施した。採択者による発表に加え、本助成の審査委員4名も参加して各団体の活動に対するフィードバックを行う時間も設けた。
成果および 今後の方向性	「文化芸術の創造・発信事業」では、仙台の特徴・特色をふまえた企画提案となっている事業に助成を行い、さらにより幅広い層が事業に参加できるよう工夫されている事業に対しては、「情報保障・鑑賞サービス補助」による助成も行い、文化芸術に多様な手法でアクセスするための間口を広げた。 「文化芸術と社会の連携推進事業」では、観光、まちづくり、福祉、教育等の分野との連携により社会課題と向き合う公益性の高い先進的・独創的な事業に対し助成を行い、活動の継続・発展を後押しした。また、本事業には文化芸術関係者のチャレンジを誘引し、新たな担い手育成につなげることをねらいとした「スタートアップ枠」を設け、新規事業や試行的な取り組みであっても申請をできるよう工夫を行った。 また、助成の効果を最大限に引き出すため、伴走支援としてキックオフミーティング、視察・ヒアリング・レビュー記事の執筆、活動報告会を実施した。 [参加者からの声(アンケート結果より)] ・ このような助成プログラムと報告会は、是非、継続していただきたい。審査員の方々のコメントも的確、かつ熱意があり良かった。 ・ (活動報告会について)さまざまな団体の取り組みが一同に可視化され、各々の企画運営・発信の仕方など、とても参考になった。新たな繋がりも生まれそうなので、このような機会を続けてもらいたい。



	今後も助成金の交付に加え、市内で活動する文化芸術の担い手育成の観点や、本助成により展開される活動の地域・社会への波及効果も意識しながら、活動団体同士の交流の場づくり、相談対応、広報支援といった資金面にとどまらない伴走支援についても、継続して実施をしていきたい。
--	---

②創造性をひらく子ども・若者プロジェクト

未来の担い手である子どもたちの豊かな感性を育むため、子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会の充実を図ります。また、若い世代のアーティストの活動を支援するため、その育成・発表・活躍の機会の創出につながる新たな取組みについて検討を進めます。

〔R6 取組み実績〕

取組み項目	学校・保育所等へアーティストを派遣する取組み
目的	子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会を創出することで、子どもたちの豊かな感性を育む。
事業内容	市内の学校、幼稚園や保育所等を対象に、音楽・演劇・舞踊等の実演者を派遣し、子どもたちが文化芸術を体験するアウトリーチ事業を実施する。
決算額	5,382千円(他に国事業の受託料あり)
実績	下記のとおり、令和6年9月から令和7年2月にかけて、市内の学校、幼稚園や保育所等へアウトリーチ事業を実施した。 【子どもの創造性を育むアウトリーチ事業(市事業)】 ○申請件数 157 件 ○実施件数 41 件 ○参加人数 約 3,377 名 【学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業(国事業)】 ○申請件数 41 件 ○実施件数 38 件(内、実行委員会予算での実施分 4 件) ○参加人数 約 3,840 名
成果および今後の方向性	「子どもの創造性を育むアウトリーチ事業」では、障害の有無や経済状況、家庭環境に関わらず、保育所や幼稚園等に通う未就学児施設の子どもの文化芸術の体験機会を提供することができた。

[実施施設からの声(アンケート結果より)]

- ・乳幼児にこのような観賞会を体験する機会を頂きありがとうございます。
- ・普段触れる事のできない事を体験する事ができて本当に良かったです。

本事業をきっかけに、日々の保育や教育の中で、子どもの創造性や文化的興味関心と理解を高めていく取組を実施している園もあり、子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会を創出することにつながっている。

また、本事業は、幼児教育等を専門とする方々にも評価を依頼し、「こうした機会があることは、就学前の子どもたちにとって、極めてよい経験になると思う。ぜひ、今後も継続していただき、多くの園で実施されることを期待する。」等と園と同様、好意的な意見をいただいた。

「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」では、市内の小・中・高等学校等に通う児童・生徒に文化芸術の体験機会を提供することができた。

[参加した児童生徒からの声(アンケート結果より)]

- ・綺麗な音色が体育館中に広がって、音楽に興味が出ました。
- ・これからまた劇があるのが楽しみになりました。
- ・このような授業があると自分に自信を持てるようになると思うので、これからも続けてほしい。

両事業とも実施先が希望するプログラムを実施できるようアーティストとの調整をする等工夫をした。

今後も子どものときから文化芸術に出会い、親しむ機会を創出することで、子どもたちの豊かな感性を育むために、継続して事業を実施していきたい。



③杜の都の新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト

「仙台の文化芸術の総合拠点」となる音楽ホールと「災害文化の創造拠点」となる中心部震災メモリアル拠点の複合整備を進めます。複合施設の強みを生かし、連携・協働事業を実施する等、仙台ならではの創造・発信を行い、仙台と世界をつなげる杜の都の新たなシンボルとなることを目指します。

〔R6 取組み実績〕

取組み項目	(仮称)国際センター駅北地区複合施設の整備
目的	複合施設の整備を着実に進める。
事業内容	令和 13 年度頃の開館を目指し、以下の取組みを進める。 ①基本計画を策定する。 ②公募型プロポーザルにより設計者を選定し、基本設計に着手する。 ③施設の運営のあり方などを定める「管理運営指針」の検討を行う。
決算額	85,823千円
実績	①基本計画の策定 複合施設整備の整備プロセスで必要となる事項を具体化する基本計画を令和6年5月に策定した。 ②基本設計業務受注候補者の特定および契約締結 令和6年5月に基本設計者を選定する公募型プロポーザルを公示し、77 者から参加表明書の提出があった。9月に公開プレゼンテーション及び最終審査を行い、(株)藤本壮介建築設計事務所を基本設計業務受注候補者として特定。11月に基本設計業務委託契約を締結し、基本設計に着手した。 ③管理運営指針の策定に向けた検討 4 名の有識者を(仮称)国際センター駅北地区複合施設管理運営アドバイザーに委嘱し、管理運営指針策定に向けた検討を進めている。
成果および今後の方向性	①基本設計 公募型プロポーザルには 77 者が参加表明書を提出し、公開プレゼンテーションの動画配信はアーカイブ配信を含め 1 万 3,000 回以上視聴されるなど、全国的な注目を得て選定を実施することができた。 基本設計の完了は令和 7 年 11 月下旬を予定しており、引き続き、基本設計者に加えて、複合施設整備アドバイザー、音響コンサルタントらが参画する体制のもと、市民・関係者の意見を幅広く伺いながら検討を進める。 ②管理運営指針

	複合施設管理運営アドバイザーとの意見交換等により、施設のあり方、事業方針等に関する検討を進めた。 今後、中間案の公表後、パブリックコメントの実施を経て、策定を目指す。
--	---

取組み項目	機運醸成・開館を見据えたソフト事業の実施
目的	開館に向けた機運盛り上げや事業モデルの構築、関係者とのネットワーク構築を図る。
事業内容	以下の先行事業を実施する。 ①開館に向けた機運盛り上げや事業モデル構築のため、地域の様々な場所で文化芸術体験の機会を提供する事業を行う。 ②多様なステークホルダーとの協働により災害文化創造に資する取り組みや情報発信を行うとともに、災害記録共有アーカイブの利活用を促進する。 ③施設のあり方を市民とともに考えるシンポジウム等を開催する。
決算額	26,270 千円
実績	①プレ事業(青葉山エリア複合施設整備室所管分) 【青葉山おんがくひろば】 乳幼児を含むこどもたちを対象に、それぞれの発達段階に応じたプログラムを用意し、純粋な楽しみから文化芸術と触れ合う機会の創出や創造性の発揮につながっていくようなワークショップ・プログラムを展開した。 ・乳幼児から小学生までを対象に、令和6年10月から令和7年2月にかけて全5回開催。 ・全体で159組379人(こども189人、おとな190人)が参加した。  【こんにちはコンサート】 市内の高齢者施設、障害者施設等に赴きコンサートを実施する「こん

にちはコンサート」今年度は以下の場所を会場に全6回開催した。

〔訪問先〕

- ・ 大野田はぎの苑
- ・ パルいずみ
- ・ トナカフェせんだい
- ・ ケアハウス松香の郷
- ・ ひまわり会+すこやかサロン
- ・ 成仁杜の里仙台



②プレ事業(防災環境都市推進室所管分)

【くらしともしもの研究所】

「普段のくらしを豊かにすることで、災害(もしも)を乗り越える人や文化をつくる」ことをコンセプトに、様々なイベントや発信を行った。

○食プロジェクト

普段から美味しく食べることができ、かつ長期保存できるよう開発されたレシピをもとに、実際に料理する「食の活動共有会」を実施した。

〔実施日〕

- ・ 令和6年10月15日、11月30日、令和7年1月26日(全3回)



○キャンプ・外遊びプロジェクト

身近な地域資源を活用して、こどもが自由な遊び場づくりを楽しむことを通じて、災害などの「もしも」の時に役立つスキルを身に付ける取り組みを実施した。

[実施日]

・令和6年9月16日、11月2日、11月17日(全3回)



○DIY プロジェクト

「もしも」のときでも自分で「何とかする」スキルを身に付けるため、DIY を気軽に楽しめるイベント「がんばりペア部」を開催した。

[実施日]

・令和6年11月23日、令和7年2月1日(全2回)



○くらしともしもの上映会

選ぶことのできない「もしも」とともに生きる人の営みについて、ドキュメンタリー作品を鑑賞することで考えを深める試みを実施した。

[実施日と上映作品](全3回)

- ・令和6年12月11日「サンタクロースをつかまえて」
- ・令和7年1月11日「カマグログ」
- ・令和7年3月11日「空に聞く」

○野外コワーキングプロジェクト

災害時、電気などが途絶しても人が集まり情報交換できる場として、まち中に仕事場や休憩所をつくる試みを実施した。

〔実施日〕

・令和 6 年 10 月 8 日、令和 7 年 1 月 2 日(全2回)



③シンポジウム等の開催

市民参加型の企画を以下のとおり開催した。

【「みんなで話そう！ 新しい文化施設のこと」】

〔実施日〕

令和7年2月2日

〔場所〕

せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

〔参加者数〕

ディスカッション参加:25 名、聴講者:約 40 名

〔実施概要〕

「第 7 回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」のプログラムのひとつとして行われたこの催しでは、視覚や聴覚に障害のある方や肢体不自由の方などを含む 25 名がディスカッションに参加し、4 つのグループに分かれて、「みんなのための施設の実現のために大切なこと」について意見を出し合った。あわせて、聴講者からも意見を募った。

ディスカッションには、本施設の設計者である藤本壮介建築設計事務所から、藤本壮介氏をはじめ多数のスタッフも出席した。

また、当日出された意見等をまとめた開催レポートを、ホームページ上に公開した。



【「仙台防災未来フォーラム」】

[実施日]

令和7年3月8日

[場所]

仙台国際センター展示棟 展示室1-B

[参加者数]

聴講者:74 名

[実施概要]

仙台市より、「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設」の概要についてご説明した。

また、「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設」の基本設計業務受注者である(株)藤本壮介建築設計事務所主宰の藤本壮介氏より、設計理念、設計プラン、今後の進め方等についてプレゼンテーションを行った。



成果および
今後の方向性

①プレ事業(青葉山エリア複合施設整備室所管分)

「青葉山おながくひろば」の参加者アンケートでは 100.0%が「満足」または「やや満足」と回答し、以下のようなコメントが寄せられるなど満

	足度の高い事業実施をすることができている。 引き続き、関心拡大、事業モデル構築、担い手育成等に資するプレ事業を継続的に展開していく。 [参加者からの声(アンケート結果より)] ・コンサートは未就学児不可のものばかりで、本物のヴァイオリンの音色を聴かせてあげられる機会はとてもありがたいです。 ・世界の音楽・楽器に触れられる機会があるのは貴重ですし、親も初めて拝見する楽器がたくさんあって楽しめました。“音に触れる・楽しむ”良い時間でした。 ・参加型でこども達も実際に体験しながら音楽を楽しめました。とてもあたたかい時間を過ごすことができました。 ・こどもに生の楽器の音に触れて欲しいと考えていたが、なかなか楽しんで聴ける場所がなかった。こどもに無理のない時間で、そして間近で音楽に触れることができる良い機会でした。 ②プレ事業(防災環境都市推進室所管分) 多様な活動や楽しさを鍵に、これまで防災に積極的に関与していない層と接点を持つことができるなど活動の方向性を見出すことができた。 活動の場を広げつつ、情報発信にも工夫を行いながら、引き続き「災害文化の創造・定着」に向けた試みと研究を行っていく。 [参加者からの声(アンケート結果より)] ・「もしも」に備える日常的な意識が改めて大切に感じた。 ・楽しく参加できていろいろな知識を知れるのはとても良い体験でした。 ・もしもの時に備えられる生活ということをあまり考えたことがなかったが、日常生活でできていることもあるし、もっとできることもあることに気づきました。 ③シンポジウム等の開催 複合施設整備への認知向上及び理解促進を図るとともに、施設の整備・運営に関する意見を収集することができた。引き続き、機運醸成や意見収集に資するイベントを開催していく。
--	---

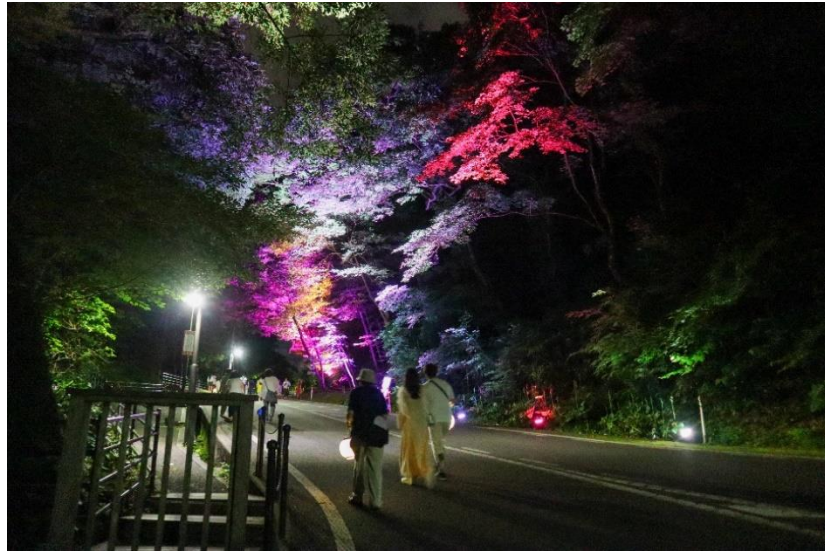
④文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクト

文化芸術の持つ多様な価値を生かし、仙台はじまりの地とも言える青葉山エリアや仙台の都心(定禅寺通・勾当台周辺、青葉通・一番町周辺、仙台駅周辺、宮城野通周辺)等、多くの人が集い、交流が生まれる魅力的な都市空間の実現に資する取組みを推進します。また、アートプロジェクトの展開を通じて仙台のアートの土壌を豊かにするとともに、仙台ゆかりの多様なコンテンツの活用、新たなコンテンツの創出により世界への発信力を高め、広くまちの活性化につなげます。

〔R6 取組み実績〕

取組み項目	青葉山エリアの文化観光推進
目的	「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」の示す将来像の実現に資する取組みを推進する。
事業内容	①最新テクノロジーを活用した体験型コンテンツの創出 青葉山エリアにおいて、最新技術を活用することにより、仙台の歴史・文化を楽しみながら体験・体感できるコンテンツを創出する。 ②アトラクション型演武ショー「伊達ロマネスク」開催 令和4年度に製作、公演した世界的パフォーマンス集団「白A」によるアトラクション型演武ショー「伊達ロマネスク」を仙臺緑彩館で開催し、夏の観光コンテンツとしての認知度を向上させ、定着を目指す。 ③仙臺緑彩館におけるまつりの魅力発信 仙臺緑彩館へ、山鉾や仙台七夕まつりの七夕飾りの常設展示を行うとともに、本市を代表する、伝統・祭り文化である「仙台すずめ踊り」の体験機会を創出するため、定期演舞を実施する。 ④伊達光路(登城路ライトアップ事業) まつりと歴史の趣きを感じることができるような青葉山エリアの魅力を発信するため、夏期の観光シーズンに合わせ登城路のライトアップを行うほか、七夕まつり期間中には特別ライトアップを実施する。 ⑤青葉山魅力・回遊性向上に係る調査実証 青葉山エリアの魅力・回遊性向上に向けた調査を行うとともに、繁忙期の交通渋滞対策として市道仙台城跡線におけるシャトルバス運行及び一ぶる仙台の迂回運行を行う。 ⑥デジタル古地図を活用したプロモーション 青葉山エリアの古地図をデジタル化して制作し、現代地図と比較しながらの街歩き企画などの実施を通じて、青葉山エリアの新たな魅力の創出や歴史文化の継承に繋げる。

決算額	62,178 千円(①12,400 ②5,143 ③3,594 ④15,624 ⑤10,651 ⑥2,796)
実績	① ①最新テクノロジーを活用した体験型コンテンツの創出 仙臺緑彩館に、伝統文化(仙台すずめ踊り)と最新テクノロジーを掛け合わせた体験型観光コンテンツ「祝彩緑彩バーチャルすずめ祭り」を造成し、公開開始から約3か月間で延べ3,090人の利用があった。  ②アトラクション型演武ショー「伊達ロマネスク」開催 仙臺緑彩館にて、8月6日から8月18日の間で計10日間、全29公演を実施し、911人の来場者があった。 ③仙臺緑彩館におけるまつりの魅力発信 仙臺緑彩館にて、すずめ踊りの演舞披露と体験会を計19日間実施し、延べ約1900人の来場者があった。 ④伊達光路(登城路ライトアップ事業) 仙台城跡登城路のライトアップを7月20日から8月31日まで実施したほか、仙台七夕まつり期間には特別ライトアップを含む七夕ナイトフェスを開催し、ナイトフェス全体で約3万人の来場者があった。



⑤青葉山魅力・回遊性向上に係る調査実証

仙台城跡や瑞鳳殿等の青葉山エリアの観光スポットへの来訪者を対象にしたアンケートを実施し、449 名から回答を得た。

交通渋滞対策としては、通行止めとなっている市道仙台城跡線においてシャトルバスを運行するとともに、るーぷる仙台的迂回運行を実施した。ゴールデンウィーク期間、七夕・お盆期間、9 月の連休期間に延べ 28 日間運行し、約 6 万人の方に利用いただいた。



⑥デジタル古地図を活用したプロモーション

市指定文化財「仙台城下五輦卦絵図」を、デジタルで再生し現代の地図と比較しながら街歩きを楽しめる WEB システム「デジタル再生古地

	図」を活用し、「仙台北下再生古地図」として完成させ、その活用法を探る講演会と観光ガイド PR 会を実施した。
成果および 今後の方向性	①最新テクノロジーを活用した体験型コンテンツの創出 在仙メディア各社による報道により、仙臺緑彩館への来館者による利用を促すことができおり、今後もさらに認知の拡大を図るため、継続的にプロモーションを実施していく。 ②アトラクション型演武ショー「伊達ロマネスク」開催 夏の期間に集中して開催したことで、夏の観光コンテンツとしての認知度を向上させることができた。今後は、民間事業者が主体となり実施していく。 ③仙臺緑彩館におけるまつりの魅力発信 仙臺緑彩館で1年を通し開催したことで、一定の認知度を得ることができ、観光客にも仙台の文化を伝えることができた。次年度以降、仙台すずめ踊り以外に伝統芸能の演舞披露も実施することで、仙臺緑彩館の観光コンテンツの一つとして実施できるよう検討を進める。 ④伊達光路(登城路ライトアップ事業) 前年度を上回る来場者を記録し、一定の認知度を得ることができた。次年度においても青葉山のさらなる魅力向上につながるイベントを開催し、将来的に民間事業者が主体となり実施できるよう検討を進めていく。 ⑤青葉山魅力・回遊性向上に係る調査実証 令和4年度の市民アンケートとの比較が可能な形式で、観光客等の県外からの来訪者を含む調査データを得ることができた。本データをオープンデータとして民間事業者の活用を促すとともに、青葉山エリアでの取り組みを検討するにあたっての基礎資料としていく。 交通渋滞対策としては、市道仙台北城跡線の再開までの間、ゴールデンウィーク等の繁忙期について引き続きシャトルバスの運行を実施し、観光客の受入環境の充実を図る。 ⑥デジタル古地図を活用したプロモーション 今後、仙台市観光情報サイト「せんだい旅日和」において一般公開して

	いくとともに、観光ボランティアの案内ツールとしての利用や、修学旅行などの「教育旅行」で活用していく。
--	--

取組み項目	漫画・アニメコンテンツを活用した誘客推進
目的	本市にゆかりのある漫画やアニメコンテンツを活用し、本市への誘客及び周遊を促進する等、まちの賑わい創出を図る。
事業内容	仙台観光特使に就任する『ハイキュー!!』のキャラクターを活用した誘客推進の取組みを進める。
決算額	10,714 千円
実績	①仙台観光特使就任記念モニュメント設置 昨年に引き続き、漫画『ハイキュー!!』のキャラクターから、月島蛍さんと山口忠さんへ仙台観光特使を委嘱し、作者の古舘春一氏が仙台観光特使の就任を記念して特別に描き下ろしたイラストで仙台市博物館へ記念モニュメントを設置した。  ©古舘春一／集英社 ②デザインプレート製作 漫画『ハイキュー!!』のイラストを使用したデザインマンホール設置に向けて、デザインプレートを製作した。
成果および今後の方向性	製作したデザインプレートは、富沢駅から作品ゆかりの地であるカメイアリーナ仙台までの道に令和7年度に設置するなど、様々な企画を通じて、観光客の誘致・周遊促進を図る。

取組み項目	現代アート等先端的な取組みの推進
目的	地域の人材・資源・課題と優れたアーティストの仕事をつなぎ、「未知の

	ものに向かう」現代アート特有の力で、まちの魅力と活気を引き出すプロジェクトを展開する。
事業内容	せんだい・アート・ノード・プロジェクトの実施。 ①地域展開事業 「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と「地域の人材、資源、課題」をつなぎ、「アートの現場」を仙台につくるプロジェクト。アーティストによるプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」、「ワケあり雑がみ部」、「ARCADE」などを実施する。 ②コミュニケーション事業 現代アートならびに事業の理解を深める機会づくりとして、自由参加型公開会議「MEETING」の開催、東北の動向を知らせる「JOURNAL」の発行を行う。 ③交流による人材育成 東北出身の若いアーティストらと現在、仙台で活動を行っているアート、文化関係者らがつながる機会をつくる。
決算額	19,837 千円
実績	① 地域展開事業 ・「川俣正/仙台インプログレス」では、若林区井土地区、宮城野区新浜地区においてプロジェクトを展開した。井土地区においては、東日本大震災後世帯数が激減し、新たなまちづくりが改めて始まっている中、地域住民や関係者へのヒアリングをもとに、井土地区へ足を運んだ際に利用できる作品として、《井土浜テラス》などを作成した。また、新浜地区においても、地元主催のイベントに合わせて、貞山運河に仮設の船橋作品を設置したり、関連事業として在仙アーティストが作品を制作するなどし、地域の歩みに合わせた活性化を図った。 ・仙台市の資源区分である「雑がみ」を活用した場づくり事業「ワケあり雑がみ部」では、アーティスト藤浩志監修のもと令和6年6月から12月まで、月2回せんだいメディアテーク7階で活動を行った。そのほか、八幡町や春日町、福祉事業所、企業などと協力して、街中で活動を展開した。 ・「ARCADE」では、アーティスト笹原晃平が、アートプロジェクトによる貨幣を介さない交換経済の実験、及び子どもたちとその生活圏における地域振興を試みた。夏休み始めに、メディアテーク周辺の飲食店9店舗に協力いただき、親子連れ、こども同士で飲食を楽しみ、近隣の街を

	散策することで、アート作品が生まれ、さらにそれが還元されていく仕組みをシミュレーションした。 ② コミュニケーション事業 ・「MEETING」では、「川俣正/仙台インプログレス」に関する振り返り、プロジェクトの検証を公開で実施した。 ・「JOURNAL」では、東北・北海道で運営されているアーティストランスペースを取り上げた特集号を作成した。 ③ 交流による人材育成 ・青葉区一番町一番街商店街の休館中の仙台フォーラス駐車場にて、30 歳前後の、仙台市内外のアーティスト・クリエイターが交流し、アートに関する情報や将来的な活躍の場を得るためのきっかけを作れるような場づくりを行った。イベントにあわせ、アーティストらのポートフォリオを募集し、当日持参も含め、約 30 名分が集まった。また、県外の有識者 4 名も招聘し、交流機会の創出を図った。 参加者数(①②③合計):166,025 人 協力事業数 18 件
成果および 今後の方向性	① 地域展開事業 ・「川俣正/仙台インプログレス」をきっかけとして、井土地区と新浜地区の住民、関係者同士の交流、意見交換の機会を作り、継続的な関係性を作ることを促進できたとともに、『仙台海浜エリアマップ』などへの作品掲載も含め、仙台市内外の人々が沿岸地域へ足を運ぶ機会作りに寄与している。今年度も、作品制作を通して仙台市沿岸地域にアートによる関係作りを推進していく。  井土地区の様子

・「ワケあり雑がみ部」は、誰もが参加できる活動であり協働の幅がある活動である。未就学児、主婦、高齢の方、福祉事業所を利用されている方、町内会、大学、企業の SDGs の試みといった、それぞれの目的に応じた関係性により、多角的に展開している。今後、雑がみ部の仕組みをまとめた手引きやメディアテーク館内での常設的な展示により、市内外へ普及させていく。



八幡町での雑がみ七夕飾り

・「ARCADE」では、プロジェクトの実施によって、子どもたちが自分たちの街を散策する機会と、協力店舗での飲食により地域の大人とのコミュニケーションの機会を得た。今後もプロジェクトの継続実施と、活動を紹介する展示を行っていきたい。



プロジェクトの様子

② コミュニケーション事業

・「MEETING」では、公開で行うことにより、井土地区、新浜地区の関係者のほか、関心を持つ市民が集まり、意見交換をすることができた。今後も適時実施していく。



MEETINGの様子

・「JOURNAL」は、仙台や東北・北海道のアートの現場や活躍するアーティストを紹介することに有効であり、直接関係性を作ることに有意義な媒体である。今後も制作を続けていく。

③ 交流による人材育成

・アート界限における交流の機会が多くはないことから、市外の文化施設の職員や有識者も集い、直接話す機会を持ちながら、アートの情報を共有する機会をオープンな形で作ったことには反響があり、継続した開催を求める声があった。また、イベント終了後もイベントに参加した方々での交流が見られた。



参加者同士の交流の様子

目指す姿1～5を横断する施策

I これからの文化芸術を支える仕組みの構築

①担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討

重点プロジェクト①文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト
地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成 参照

II 文化施設環境等の充実

①活動の場の充実

[文化施設環境の維持管理]

「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」に基づき、主に以下の文化施設の計画的な修繕・設計を進めるとともに、活動や発表の場を持続的に提供できるよう、既存の文化施設環境の維持管理に努めました。

- ・若林区文化センター大規模修繕工事
- ・広瀬文化センター大規模修繕設計

[公共空間の利活用]

「仙台クラシックフェスティバル」の関連事業として、地下鉄駅構内において、公募で選ばれた市民がクラシック音楽を中心に据えたプログラムを演奏する「地下鉄駅コンサート」を開催しました。

9月～10月にかけての4日間、仙台駅・旭ヶ丘駅の2箇所でコンサートを開催し、延べ134人が出演、約4,800人が来場しました。



②文化施設のバリアフリー化の推進

・授乳室の設置

青年文化センターにおいて、既存の諸室を授乳室へ転用するための工事を行いました。(令和7年12月から利用可)



③あらゆる人が参加しやすい環境づくり

事業・施設等	実施した取り組み
随時(仙台市主催イベント等)	・障害のある方も参加しやすいイベントづくりのため、当事者を招いて研修会を開催しました。

	・サポートが必要な方も講演会やイベントに参加しやすいように、必要な配慮の内容をあらかじめ確認し、手話通訳や車椅子での参加者への座席確保などといった対応を行いました。
文化芸術を地域に生かす創造支援事業	・情報保障等の提供にかかる実費を補助するため、事業費への補助とは別に「情報保障・鑑賞サービス補助」のメニューを設けました。（「情報保障・鑑賞サービス補助」交付件数：7 件）
「みんなで話そう！新しい文化施設のことー（仮称）国際センター駅北地区複合施設（音楽ホール＋中心部震災メモリアル拠点）に関するディスカッションー」	・障害のある方もイベントに参加しやすい環境づくりのために、手話通訳や要約筆記を準備して開催したほか、障害がある方とその支援者から意見を聞き、基本設計業務受注者に共有しました。
せんだいメディアテーク	・トークイベント「鷲田清一とともに考える」などの事業において、手話通訳、要約筆記付き事業を実施しました。 ・上映事業（『映像の仙台史』など smt シネマ・シリーズ）において、誰でもリラックスして参加できるよう、会場内をやや明るくし、声を出しても良い日を設けて行いました。また、同事業において託児サービスも実施しました。
仙台・宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）	・ミュージアムにおける合理的配慮を学ぶ座学研修と、実践的研修を実施しました。（開催回数：2 回、参加者数：のべ 55 名）
地底の森ミュージアム	・手話通訳ガイド付きで、たのしい地底の森教室「ミュージアム・シアター 狩人登場!!」を行いました。
縄文の森広場	・外部の合理的配慮に関する研修（独立行政法人国立美術館による「ミュージアム・アクセシビリティ講座」）に参加した職員を通して、職員全体へ「あらゆる人が参加しやすい環境づくり」のポイントについて周知しました。 ・3D プリンターで展示中の土偶を再現し、視覚が不自由な方でも触れて形を認識できる展示を設置しました。

Ⅲ 新たな文化拠点の整備

①(仮称)国際センター駅北地区複合施設の整備

②機運醸成・開館を見据えたソフト事業の実施

重点プロジェクト③ 杜の都の新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト 参照

Ⅳ 効果的な情報発信の推進

①効果的な広報展開

事業・施設等	実施した取り組み
伝統文化親子教室	市政だより・市政ラジオでの発信、他課 SNS の活用、250 か所を超えるポスター及びチラシの配布、担当課他イベントでの案内、担当課 X(旧:Twitter)での計画的な発信により、参加人数の増加につなげることができました。
地底の森ミュージアム、縄文の森広場	2 施設の共同で、Facebook 及び YouTube による情報発信を行いました。
(仮称)国際センター駅北地区複合施設整備	SNS による発信の波及効果を高めるため、発信した内容について関係者や出演者のアカウント等でも取り上げてもらうよう働きかけを行い、様々な主体と連携した情報発信に取り組みました。
劇場・音楽堂等機能強化推進事業におけるこども向け事業	未就学児を対象とするコンサートやダンスワークショップ等について、対象世代に効果的に情報が届くよう、通常の広報範囲に加え、子育て情報サイト「せんだいのびすくナビ」での情報発信を行いました。